

平成28年度

河川名	地点	水素イオン濃度		生物化学的酸素要求量		浮遊物質質量		溶存酸素量					
		PH		BOD		SS		DO					
		月	年平均	月	年平均	月	年平均	月	年平均				
神田川	久保前橋	5	7.8	7.6	5	1.2	7.0	5	2.0	26.5	5	9.0	9.2
		9	6.8		9	23.0		9	94.0		9	6.2	
		11	7.7		11	2.0		11	5.0		11	9.7	
		2	8.0		2	1.6		2	5.0		2	11.8	
	高戸橋	5	7.4	7.0	5	0.8	6.1	5	<1	9.5	5	8.4	8.2
		9	6.9		9	21.0		9	35.0		9	7.1	
		11	7.0		11	0.7		11	<1		11	8.6	
		2	6.7		2	1.9		2	1.0		2	8.7	
妙正寺川	四村橋	5	6.8	7.1	5	1.5	3.3	5	1.0	5.8	5	9.1	8.5
		9	6.9		9	8.5		9	15.0		9	6.4	
		11	7.4		11	0.9		11	3.0		11	9.0	
		2	7.1		2	2.3		2	4.0		2	9.3	

※計測値未満の数値については、計測の下限値を用いて平均値を計算しています。

各項目の解説

水素イオン濃度 (PH)

水の酸性、アルカリ性を示す指標。0から14の間の数値で表現されています。PHの数値が7だと中性、7から小さくなるほど酸性が強く、7から大きくなるとアルカリ性が強いことを表しています。

環境基準 6.5～8.5

生物化学的酸素要求量 (BOD)

微生物が水中の汚れ(有機物)を食べる(酸化分析)時に必要とされる酸素の量をもって表したものです。値が大きくなるほど河川が汚れているということを表しています。

環境基準 5mg/l以下(C類型)

浮遊物質質量 (SS)

水中に浮遊している不溶性の物質。水の濁りの原因となる。光の透過を妨げ、河底に堆積すると河底の生物にも悪影響を及ぼします。

環境基準 50mg/l以下(C類型)

溶存酸素量 (DO)

水中に溶解している酸素の量です。1気圧のもとで20度の清水には約9mg/lの酸素が溶け込みます。気圧、水温などによっても数値は変動します。また、日中、水中植物の光合成が行われるとDOは高くなります。

環境基準 5mg/l以上